



防災世界子ども会議 (NDYS) 2014-2015

防災世界子ども会議実行委員長 納谷 淑恵

プロジェクト創設者 岡本 和子

1. はじめに

「防災世界子ども会議」は、2005年、阪神・淡路大震災から10年を機に始まりました。その集大成として、ネットワークに参加した世界各地の子どもたちが、1年に一度世界大会やテレビ会議で顔を合わせます。

2. 目的と方法

21世紀、世界の教室はつながり、子どもたちはさまざまな国・地域の防災の「知恵」や災害から学んだ「教訓」を共有し、災害から命を守り、災害リスクを軽減する学びに取り組みます。

ICT(情報コミュニケーション技術)を活用し、『防災・減災』というグローバルな課題に多様な価値観をもつ人々と共に考え、連携・協働で取り組み、グローバルなマインドを育みます。

3. 活動内容

(1) 2014年度の活動

阪神・淡路大震災から20年を迎える2015年1月に愛知県豊田市で「防災世界子ども会議」を開催いたしました。豊田市の協力のもと、多くの中学生の参加があり、日本の高校生並びに世界10か国から集まった参加者とともに、プロジェクトの発表並びに、NDYS2015宣言文を採択・発信しました。



「防災世界子ども会議 2015 in とよた」

URL: <http://ndys.jearn.jp/2015/index.html>

2015年3月15日、仙台で開催の第3回国連防災世界会議の関連イベントであるパブリックフォーラムの「防災教育フォーラム(パネリストとしてユネスコ本部からESD最高責任者も参加)」の中で、「世界に広がる防災の輪」という形で、「防災世界子ども会議2015 in とよた」の様子が放映され、ネットワークを活用した防災教育の促進事例として紹介されました。

(2015. 3. 19)

(2) 2013年度の活動



平成26年度スーパーグローバルハイスクール(SGH)指定校 神戸市立葺合高校の発表

プロジェクト参加校は、JEARNの会での発表や、アイアーンのコラボレーションセンターで情報を共有し、成果を発信しています。神戸から、台湾、トルコ、ロシア、セルビアをつないだテレビ会議を実施し、NDYSメンバーの交流がなされました。また、台湾のシンディによる中国(深セン)でのワークショップでのポストカード作りなど独自の活動も行いました。

4. 成果と課題

10年を目標にスタートしたプロジェクトもついに10年を経過し、これまでの活動とこれまでに培った繋がりを大切にしつつ、新しい参加者を募り、新たな取り組みを行っていきたく考えます。